

目次

5	ロゴのコンセプト
6	あいさつ
6	奈良市長
7	文化庁長官
8	東アジア文化都市2016奈良市 アドバイザー
9	開催概要
10	東アジア文化都市2016奈良市 事業概要
12	2016年東アジア文化都市 パートナー都市
15	シンポジウム
16	オープニング
22	古都祝奈良 開幕
24	なら国際映画祭2016
26	東大寺にみる東アジアの技術と文化
28	クロージング
31	基幹事業
32	古都祝奈良 事業概要
34	美術部門
54	舞台芸術部門
62	食部門
67	交流事業
68	オープニング
71	日中韓3都市交流事業
79	クロージング
83	連携事業
84	企画連携事業
86	市民連携事業
88	広報連携事業
89	サポーター・広報活動
90	サポーター活動
93	広報活動
103	資料編
104	奈良宣言
105	事業一覧
110	来場者アンケート



ロゴのコンセプト

東アジア文化都市、奈良市・寧波市・濟州特別自治道
日・中・韓といえば、東アジア文化圏。共通して漢字圏とも言える。600年前に韓国は世宗大王の時、民衆の文字であるハングル文字を創設したが、一部では漢字も使っている。中国は簡体字を50年前から使い出した。しかし、日・中・韓に共通しているものは、書。筆を使った文字表現は共通している。奈良のロゴタイプは書道でも良かったが、書にデザインを入れることで、未来が見えて来るようにした。書の宇宙では、最後に緊張感をもって、朱肉をつけて印を押す。ラテン文字でNARAの印を作った。

浅葉克己

奈良市長あいさつ

2016年、本市は「東アジア文化都市」として寧波市（中国）、済州特別自治道（韓国）とともに、さまざまな文化交流プログラムを展開してまいりました。

「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマに伝統文化から現代芸術まで、美術・舞台芸術・食のほか多岐にわたる分野で各都市の市民が深くつながり、東アジア域内の相互理解と連帯感を高めることができた実感しています。また、青少年交流も活発に行われ、将来を担う若者たちが大きな夢と希望をもち、東アジアの未来を切り拓いていこうとする想いが育まれました。

特に、本事業のコア期間プログラムである「古都祝奈良 ― 時空を超えたアートの祭典」には、多くの市民や観光客の皆さまにご来場いただき、世界遺産である社寺でのアート展示や平城宮跡での野外演劇など、奈良市の持つ文化的ポテンシャルの高さと「場の力」を改めて認識し、未来への可能性を感じていただけたと確信しています。

これを契機に、「東アジア文化都市」のレガシーを引き継ぎ、奈良だからこそできることを、今後も世界に向けて発信してまいります。

最後に、本事業の実施にあたりご協力いただきました多くの関係者の皆さまに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



奈良市長 仲川 げん

나라시장 인사말

2016년 나라는「동아시아문화도시」로서 닝보시（중국）, 제주특별자치도（한국）와 함께 다양한 문화교류 행사를 개최하여 왔습니다. 「고도 나라에서 다양성의 아시아로」를 테마로 전통문화에서 현대미술까지 미술·무대예술·음식 등 다방면에 걸친 분야를 통한 각 도시 시민들의 깊이 있는 교류로 동아시아 역내의 상호 이해와 연대감을 형성할 수 있었다고 확신합니다. 또한 청소년 교류도 활발히 이루어져 미래를 짊어 갈 젊은이들이 꿈과 희망을 가지고 동아시아 미래를 개척해 갈 거라 생각합니다.

특히 본 사업의 코어기간 행사인「고도호구나라古都祝奈良 - 시공을 초월한 예술제」에는 많은 시민들과 관광객들이 참가해 세계유산인 사원에서의 작품전시, 헤이조 궁터에서 가진 야외 공연 등, 나라시가 지닌 높은 문화적 저력「장소의 힘」과 미래를 향한 가능성을 다시 한번 확인할 수 있었다고 생각합니다. 이번행사를 계기로 하여「동아시아문화도시」의 유산을 계승함과 동시에 나라시 고유의 맛을 알리기 위해 세계를 향해 달려갈 것입니다.

마지막으로 본 사업을 위한 관계자 여러분의 많은 협력과 노고에 이 자리를 빌려 진심으로 감사를 드리는 바입니다.

나라시장 나카가와 겐

文化庁長官あいさつ

「東アジア文化都市2016奈良市」が、横浜市、新潟市に続き大きな成功を収め終了しましたことを心よりお慶び申し上げます。

東アジア文化都市は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき2014年から開始された日中韓3か国の共同事業であり、3か国の友好協力関係の深化および東アジアの安定と平和繁栄に寄与する事業です。2016年奈良市は、日本の誇る世界文化遺産の社寺や平城宮跡といった「場」の力とその地が育んできた海外との深遠な交流の歴史をふんだんに活かした現代アートの展示や野外舞台演劇、食のワークショップ等をはじめ、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道とともに青少年や芸術家の相互の交流事業を実施する等、東アジア文化都市として1年間にわたり多くの文化芸術イベントを展開しました。日中韓3か国はもとより東アジア文化の多様性や共通性を再発見できる一年であったと感じられます。本事業に対する関係者の皆さまの長期間にわたる御尽力に敬意を表します。

2016年東アジア文化都市の3都市の交流が今後も活発に続くことを期待するとともに、この成果がレガシーとして、後続く東アジア文化都市へと継承され、各都市がより一層発展していくことを祈念いたします。



文化庁長官 宮田 亮平

文化厅长官致辞

继横浜市、新潟市之后，“东亚文化之都2016奈良市”再次取得圆满成功，对此我表示衷心的祝贺。东亚文化之都是根据中日韩文化部长会议所达成的协议，自2014年起启动实施的中日韩三国的联合交流活动，借此深化三国友好合作关系，实现东亚的和平安定与繁荣发展。2016年一整年中，奈良市作为东亚文化之都开展了多项文化艺术活动。在日本著名世界文化遗产的神社寺院、平城宫遗址等，充分利用其特殊的空间优势以及在这里所孕育出的海外交流的悠久历史，举办了现代艺术展示、户外舞台剧公演、食文化研究讨论等活动，内容丰富多样。此外还与中国宁波市、韩国济州特别自治道共同开展了青少年及艺术家等之间的交流活动。我们能够感受到，2016这一年是中日韩三国乃至东亚区域内各个国家重新发现东亚文化多样性与共通性的一年。在此，对相关人员长期以来为本活动提供的大力支持表示崇高的敬意。

衷心希望同为2016年东亚文化之都的奈良市、宁波市、济州特别自治道今后能够一如既往地积极开展交流，同时也祝愿这一年的活动成果能够作为一份宝贵的遗产，传承至今后持续开展的东亚文化之都活动，各城市从而实现更进一步的发展。

文化厅长官 宮田 亮平

문화청장관 인사말

「동아시아문화도시2016나라시」가 요코하마시, 니가타시에 이어 성공리에 막을 내리게 된 것을 진심으로 축하말씀 드립니다.

동아시아문화도시는 한중일문화장관회의의 합의를 바탕으로 2014년부터 새롭게 시작된 한중일3개국의 공동사업입니다. 3개국이 서로 돈독한 우호 협력관계를 키우고 동아시아의 안정과 평화번영에 기여하기 위한 사업입니다. 2016년 나라시에서는 일본의 자랑스러운 세계문화유산인 사원과 헤이조 궁터라는 장소의 힘, 그리고 그 곳에서 길러온 해외와의 심원한 교류의 역사를 충분히 살린 현대 아트의 전시 및 야외무대연극, 먹거리의 워크숍 등을 비롯해 중국·닝보시, 한국·제주특별자치도와 함께 청소년 및 예술가들의 상호 교류 사업을 실시하는 등, 동아시아문화도시로서 1년 동안 많은 문화예술 행사를 실시해 왔습니다. 한중일 3개국이 원래 지니고 있던 동아시아문화도시의 다양성과 공통성을 재발견할 수 있었던 한 해였으리라 생각합니다. 또한 본 사업을 위해 협력해 주신 관계자 여러분의 장기간에 걸친 노력에 경의를 표합니다.

2016년 동아시아문화도시인 3도시의 교류가 앞으로도 활발히 이어질 것을 기대함과 아울러 이번 행사의 성과가 다음 동아시아문화도시로 계승되어 각 도시가 한층 더 발전해 나가기를 기원합니다.

문화청장관 미야타 료헤이

「東アジア文化都市2016奈良市」で見たこと

はるか平城京の昔、奈良は壮大な宇宙を模した世界であり、旧都の飛鳥寺、大宮大寺、厩坂寺はそれぞれ元興寺、大安寺、興福寺と名を変え、これに薬師寺を加え、盧舎那仏を本尊とする東大寺を中心とした世界そのものが宇宙である—とする都市が成立する。これと唐招提寺、後に建立される西大寺は、奈良を代表する寺院として都市の精神的な骨格をつくることになる。この都は、宗教哲学による古代国家の理念を表したものだ。

現世に理想郷をつくらうとは、何と希望にみちた時代だったのだろう。大陸から、中近東から、さまざまな人たちが極東の島国に渡来し、文化・習俗が異なった人々が交流する国際都市が1300年前に存在したのだ。

「東アジア文化都市」は、日本海を囲む、古代以来密接な交流を続けてきた3か国が、地域間で文化交流をする国家プロジェクトだ。現在の政治的・環境的に緊張する関係ではなく、少しでも柔らかく、土地をベースにした生活文化に根ざして生きてきたそれぞれの都市が、歴史的蓄積をふまえて市民レベルで交流・交歓する。

奈良で「東アジア文化都市」が行われるようになったとき、極東の列島が大陸の文明を享け、それを意識して国づくりをしようとしたこと、その意味を深く考えたいと思った。

東大寺建立に先立って国分寺を国ごとにつくり、仏法をもって国を治めようとした国家は、土着の神のかわりに外来の仏を置くことによって、都(国家)を神話的世界から仏教的な宇宙論のもとにつくろうとしたのだ。

「東アジア文化都市2016奈良市」もまた、大仏建立(752年開眼供養)に倣って東大寺で開会式を行い、日中韓の学術交流のシンポジウムを行った。太古から海を介してつながってきた東アジアにおける人の移動、文化の伝播について、歴史学、文化人類学などの最新の知見から見はるかすことが肝要と考えたからだ。呼びかけに応じてくれた5人の碩学たちの発言は、日中韓といった国家の枠組を超えた交流の広さ、深さを知らしめ、土地に根ざした生活と文化をベースに交流を重ねようとする私たちの意図を鼓舞するものであった。登壇各氏には本報告書のために改めて寄稿いただいた。(16頁～21頁)

本事業は、美術、舞台芸術、食の3つの基幹事業を軸に行われた。公式に2016年の文化都市が決まったのは2015年の12月であり、慌ただしい日程ではあったが、舞台芸術は平田オリザさん、食は船越雅代さん、美術は私たちのチーム(アートフロントギャラリー、担当:小平悦子)がディレクションを行い、「東アジア文化都市」というプロジェクトを意味あるものとすべく大車輪で動いた。地域の文化こそ、普遍的な共通のバックボーンをもち、国境を超えて理解されうるという思いがあったからだ。

美術と舞台芸術の場は奈良市内の7つの寺院と春日大社の八社寺、ならまち、それと平城宮跡、なら100年会館である。食は4月から

随時、奈良の生活に根ざしたものをを行った。

このプロジェクトの中心となったのは東大寺さんをはじめとする格式ある寺院の呼応であった。それは奈良という歴史都市を文字通り際立たせ、そこに仏教伝来とシルクロードを想わせる国々のアーティストが現代の作品を設置すれば、はるか1300年前、50を超える民族がやってきて殷賑をきわめた世界都市長安をモデルとして造営した奈良にふさわしい偉容だと言えるのではないか。

かつて人々は、大陸を渡って世界を旅した氷河の時代の記憶をもっていた。文明は好奇心と向上心によって承けいれられていった。しかしまた、その中味をその土地の実情にあわせていくという作業も必要だった。きわめて特色ある古来の神々と仏教の共存はそこから来ている。平城京という新文化のための都市のなかで寺院が果たした役割は大きい。

新都の寺院は仏教經典の大学でもあった。そこでは出家僧のための小乗仏教からすべての衆生に開かれた大乘仏教に対する研究が行われる。仏教の經典を、寺院はそれぞれの観点から読みこみ、また他の經典が己れの經典をも補強する。それらは当時の社会に根ざしながら、時代を超えた真理を掴もうとする生みの苦しみを伴った茨の道であったことは想像に難くない。

現代のアーティストの仕事は、地質学者や考古学者に似て、それぞれの時代の文化、文明の断層を見せてくる。結果は、出来上がった作品が全てであり、それをこの報告書で皆さんに見ていただきたいと思う。

このプロジェクトをきっかけに、本事業の主旨を活かした事業の継続も検討されている。私たちは地球環境が危機におちいり、社会システムが硬直した時代に生きている。その時、ここを突破して生き抜く途は、各地でながい時間のなかで育まれた文化と、政治的な国境を超えた人々の交流と協働にあるのではないかと考える。平城京と、そこから今に続く寺院をうちに含んだ奈良が掲げる旗は、そんなものでありたい。



撮影：Junya Ikeda

東アジア文化都市2016奈良市
アドバイザー
アートディレクター 北川 フラム



開催概要

東アジア文化都市2016奈良市 事業概要 10

2016年東アジア文化都市 パートナー都市 12

東アジア文化都市2016奈良市 事業概要

「東アジア文化都市」とは

日本・中国・韓国の3か国で、文化による発展を目指す都市を各国1都市選定し、各都市が行うさまざまな文化プログラムを通して、交流を深める国家プロジェクト。現代の芸術文化や伝統文化、多彩な生活文化などを通して、東アジア域内の相互理解・連帯感を高めるとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を目指すものです。

2015年12月20日の第7回日中韓文化大臣会合において、2016年開催都市が日本:奈良市、中国:寧波市、韓国:済州特別自治道に正式決定しました。

テーマ ～古都奈良から多様性のアジアへ～

古都奈良の開かれた精神性を礎に、各都市で行われているさまざまな芸術祭・地域づくりの取り組みをつなぎながら、アジアの共通性と多様性を明らかにしていきます。

異なる文化間の絶えざる交流の中に創造力の源泉があります。古都奈良はアジア各国の人々とこの事業を通じて広く深くつながり、それぞれの文化を尊重しながら伝統と創造を響かせ、アジアの平和構築を目指します。

事業構成

「東アジア文化都市2016奈良市」事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市とともに開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを活かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」、そして、東アジアの文化をテーマとした「シンポジウム」で構成しました。「基幹事業」、「交流事業」、「シンポジウム」については、奈良市、「東アジア文化都市2016奈良市」実行委員会、文化庁の主催および共催により実施しました。

基幹事業

「美術」「舞台芸術」「食」の3つの基幹事業を中心にプログラムを展開。9月3日(土)～10月23日(日)をコア期間「古都祝奈良ー時空を超えたアートの祭典」と定め、集中的にプログラムを実施しました。

交流事業

伝統芸能や音楽、学術研究といった複合的プログラムによる文化交流を展開。日中韓の市民が直接顔を合わせ交歓し合う事業を行いました。

■伝統芸能等の文化交流 ■青少年交流 ■映像交流 ほか

連携事業

奈良ならではの発信力の高い催事や文化的ポテンシャルの高い既存事業等と連携するとともに、市民が企画する事業とも連携しました。それらと連携することで、「東アジア文化都市2016奈良市」事業との相乗発信を図りました。

■企画連携事業 ■市民連携事業 ■広報連携事業

シンポジウム

現代の芸術文化や伝統文化等をテーマに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を目指したシンポジウムを開催しました。

開催期間	2016年3月26日(土)～12月26日(月)〈うちコア期間9月3日(土)～10月23日(日)〉		
会場	八社寺、ならまち、平城宮跡など奈良市内各所		
事業数	基幹事業 37事業、 交流事業 32事業(うち3都市交流事業 30事業)、 連携事業 38事業、 シンポジウム 5事業		
来場者数	連携事業を含む総数	93事業	127万人 (うち主催・共催事業 55事業 76万人)
日中韓交流事業における相互派遣人数	受入	13事業 421人、	派遣 19事業 205人

実行委員会による事業の推進

「東アジア文化都市2016奈良市」の実施にあたり、経済、観光、文化、報道のほか、美術部門の会場となる社寺など、幅広い分野の代表で構成される実行委員会を設置し、事業の推進を図りました。

実行委員会メンバー

(順不同・敬称略)		
区分	所属/役職	氏名
委員	奈良国立博物館/館長	湯山 賢一
	奈良県立大学/特任教授	田辺 征夫
	帝塚山大学/名誉教授	中川 幾郎
	同志社大学経済学部/特別客員教授	佐々木 雅幸
	東大寺/上院院主	平岡 昇修
	春日大社/宮司	花山院 弘匡
	日本放送協会奈良放送局/局長	村田 直樹
	奈良市観光協会/会長	乾 昌弘(副委員長)
	奈良商工会議所/会頭	植野 康夫(副委員長)
	奈良経済同友会/幹事	朝廣 佳子
	奈良市長	仲川 げん(委員長)
	奈良市教育委員会/教育長	中室 雄俊
	奈良市総合政策部/部長	染谷 禎章
オブザーバー	奈良市観光経済部/部長	長岡 伸考
	文化庁長官官房国際課/課長	北山 浩士
	外務省アジア大洋州局地域政策課/課長	鯨 博行
	経済産業省近畿経済産業局産業部/部長	花内 美佐子
	国土交通省近畿地方整備局建政部/部長	寺本 耕一
	奈良県地域振興部/部長	村田 崇
アドバイザー	アートディレクター	北川 フラム
監事	株式会社南都銀行公務・地域活力創造部/部長	中南 知也
	有限責任監査法人トーマツ奈良事務所/パートナー	森村 照私

2016年12月末現在

2016年東アジア文化都市 パートナー都市

中国・寧波市（ニンポーシ）

[総人口] 約766万人 [総面積] 9,816 km²



中華人民共和国浙江省の東部に位置する副省級市。沿海部の港湾都市として商工業が発達するとともに古い歴史を誇り、国务院から国家歴史文化名城に指定されています。「書蔵古今、港通天下（書は古今を蔵し、港は天下に通ず）」を市のスローガンとします。

唐・宋の時代から海外貿易で栄え、早くから日本との往来が盛んでした。遣唐使が中国大陆への上陸港として目指した寧波港は、長い歴史をもつ中国の港の一つです。古代の「海上シルクロード」の始発港であり、7000余年の歴史を誇る河姆渡文化の発祥地です。名所としては天一閣・月湖・天童禅寺・阿育王寺・河姆渡遺跡などがあります。



韓国・濟州特別自治道（チェジュとくべつじちどう）

[総人口] 約61万人 [総面積] 1,848km²



大韓民国本土南西部に位置する濟州島と牛島・馬羅島等の島々の集まりを道としている行政区。道都は済州市。温暖な気候に恵まれ、国際自由都市としてカジノが公認されているため、国内外からのリゾート客も多く、観光業が盛んです。

韓国の三国時代にはじめて「耽羅国」という国家が濟州島に誕生し、高麗王朝に編入、朝鮮王朝時代には全羅道の一部となりました。第二次世界大戦後には済州道となり、2006年にはより高度な自治権を有する済州特別自治道となりました。道内には、韓国最高峰の漢拏山がそびえたち、一帯は「済州の火山島と溶岩洞窟」としてユネスコの世界遺産に登録されています。